# JATA 旅博 2013 への参加について

北海道総合政策部　交通政策局　物流港湾室　主査　工藤一浩

四方を海に囲まれ海の玄関として 35 の港湾がある北海道では、東京ビッグサイトで開催された「JATA 旅博 2013」（会期：H25.9.12 ～ 15）に初めて参加し、クルーズ船による来道者の増加や離島航路、日ロフェリー定期航路（稚内港～ロシア連邦サハリン州コルサコフ港）の利用促進に向け、本道の港の PR を行いました。

「JATA 旅博 2013」は、一般社団法人 日本旅行業協会（Japan Association of Travel Agents）が主催するアジア最大級の規模と実績を誇る旅行・観光イベントです。

今年は「旅で示そう 日本の元気」をテーマに、世界各国の政府観光局や旅行会社、クルーズ船社など 154 の国と地域から 730 の企業・団体が参加する過去最大の出展規模で開催され、来場者数も 13 万人を超えました。

北海道では、今年度から各港湾管理者との連携を強化し、本道の各港湾の共通する課題の検討・解決を進め、各港湾の機能強化を図ることを目的とした「港湾機能強化連携推進事業」を実施しています。

今年度は、近年、国際的にも急速に関心が高まっているクルーズ客船の誘致など港湾における人流拡大に向け、一般道民向けの「クルーズセミナー」の開催や「クルーズ船・離島航路利用者のニーズ等調査」などの取組みを実施しており、今回の出展もこの事業の一環として実施したものです。

ブースの運営には、当室の職員の他、クルーズ船の主要な寄港地である室蘭、苫小牧、函館、小樽、釧路や離島航路のある羽幌、利尻の港湾管理者等に協力をいただき、総勢 21 名が参加。港湾管理者等から提供いただいたパンフレットの配布や観光用 DVD を上映しながら、来場者へ各港の説明や地域の PR などを行いました。

また、近年、地域の観光 PR に大いに活躍する、ゆるキャラ「オロ坊（羽幌町）」と「りしりん（利尻町）」が登場した際には、来場者も足を停めて一緒に写真を撮るなど、開催期間中、各港湾のみならず北海道の魅力ある観光地などを大いに PR しました。

また、本道港湾の効果的な利用促進策検討に向け、来場者に対するアンケートを実施しました。

回答者には各港湾管理者から提供いただいた「地域の特産品」などを配布する旨、あわせて告知したところ、多くの方の協力をいただき、「こんなに港があるとは知らなかった。」「話が楽しく北海道に行きたくなった。」「このブースに来て、ぜひクルーズ船で北海道へ旅をしたいと思った。」など、北海道に対する関心の高さや本道港湾の利用促進に向けた課題やニーズなどを把握することができました。

また、旅博会場では国際商談会も実施され、ドイツ、オーストラリア、インドネシア、中国など 10 ヵ国（地域）・14 社の海外旅行代理店に対し、港湾管理者とともに「北海道の港湾を利用した観光地ツアー」などの紹介を行いました。

各国の担当者からは「日本の中でも、特に北海道の認知度や評判が高いこと」や「離島」や「クルーズ船で来道した際の観光スポット」などに関する資料要望などもあり、改めて北海道の港や地域の観光資源の潜在需要の高さを認識することができました。

今後はこれらの成果を分析し、報告書として取りまとめ港湾管理者等に提供するとともに、本道港湾の効果的な利用促進策検討につなげたいと考えています。